

|                           |             |                                               |
|---------------------------|-------------|-----------------------------------------------|
| えんぽとたんぽの始発駅<br>里山ビオトープ二俣瀬 | 会 報 第 147 号 | 2013年10月23日<br>里山ビオトープ二俣瀬をつくる会<br>編集責任者：原谷 一誠 |
|---------------------------|-------------|-----------------------------------------------|

### 1. 活動報告（事務局 記）

—10月6日（日）維持活動で、参加者は16名でした。

- ① 主にビオトープ全体の草刈りを行いました。
- ② 止水池の一部エコアップ（ガマ草の間引き）
- ③ 田んぼ避け地溝あげ等稲刈り準備

—10月19日（土） 本日稲作体験の稲刈り・ハゼかけの行事が完了しました。初夏6月15日に田植をして無農薬・有機肥料のみで栽培し何とか大きな病虫害の被害も受けず、約4ヶ月で稲刈りを行う事ができました。

参加者 会員22名・親子自然観察隊（親9名 子7名）・二俣瀬子ども会親子（親11名 子11名）ほか松永校長・上田市民センター長・野村公民館長・市環境政策課より課長補佐 川崎さん（会員）他中川さん・会員幼児5名・山大経済学部3名・工学部1名 総勢74名でした。

次回稲作体験は12月14日（第二土曜日）収穫祭（餅つき）です。

—10月22日（火）台風や雨の予報のため、緊急に招集しまして稲の脱穀を終わらせました。10時～11時30分に行い、参加者は吉富匡一郎・渡辺正雄・西村敏子・原田事務局の4名でした。モミから換算して約3俵近く収穫量があると思われます。

今晚から約まる1日を乾燥し、24日に粃摺りを行い玄米の収穫となります。

ハゼ用材や藁及び電気柵等の片づけは追って行います。

—10月24日（木）臼挽き 原田武夫さん方にてモミから玄米に臼を挽きます。2名応援が入要です・

### 2. 今後の予定（事務局 記）

◎見学者

予定は入っておりません

◎行 事

—11月3日（日）維持活動（ビオトープ全域草刈作業）田んぼ稲こぎ終了後の後始末

—11月24日（日）親子自然観察隊「里山の暮らし」収穫の喜びと題して人力での稲脱穀・大豆の石臼粉ひき・わら縄（しめ縄）づくり

※二俣瀬校区文化祭による親子自然観察隊行事の一週間遅れです！

### 3. 来訪者の声

今月はありません

#### 4. 会員の声【 環境保護を言えばえらい目に・・・・ 】 （ 原田満洲夫 記）

19日親子自然観察隊と二俣瀬子ども会を交えて稲作体験の稲刈りを行うことができました。総勢74名で盛大に行うことができました。

1年間のブランクはあったものの12年間稲作を続けてきましたが、今年も稲作経験で「無農薬・有機肥料栽培」と唱えて、いかにも環境に対応しているかのようである。そのおかげで今年もえらい目に有った。つくる会での活動日は毎月2回その1回は親子自然観察隊活動で、ビオトープ一連の維持管理活動は月1回、その中で皆様と一緒にできる作業はほんのわずかで、コナギの除草・イナゴの駆除・水管理は特に中干し等々自然環境を名目に栽培すると、えらい目にあっている。



除草機によるコナギ草取り



稲刈り

我が家でも、春のイチゴ収穫一回熟れ味を試食で数個食しただけで、後はタヌキの食料となってケーキの上には乗せることが出来ず、朝の食パン用のジャムも出来なかった。

サツマイモ・人参・馬鈴薯はそろそろ収穫かという時期にイノシシの餌となった。

電気柵・防護ネットも考えたが、別に商売で野菜を作っているわけではなく家庭菜園で有る。またまた手を抜いた。今度は4種類のサツマイモを秋から冬にかけての焼き芋用に植えたが残念ながら同じ考えがイノシシの肉の栄養となった。それでも今から秋にかけ白菜を植え美味しいキムチを作ろうと思う。昨年は無農薬を自慢したため出来た白菜はレース編みの物で更に中心部はナメクジの巣となっていた。

モンシロチョウやバッタ・ナメクジ等の**種の保存**のため働くことはもういやだ！芋の代わりに忘年会用焼き肉に回ればこれもいいかな！とにかく自然環境を壊さない方法で稲作体験を含む**農業**を行うということは**大変えらい目**に合うということである。

## 5. 親子自然観察隊 「 稲刈り 」

親子自然観察隊（10月19日 稲刈り）に参加した親子の感想



### ★阿部真愉ちゃん

わたしは、これまでに何回もいねかりをやったことがありますが、今年のはかる時、いねの下のほうを力を強くいれてかったら ほとんどいっばつで できました。それと 今年は9時から始まって10時までの一時間で終わったことが とてもうれしかったです。

### ★阿部さんのお母さん

先日はお世話になりました。

お天気もよく 参加者が多かったので みるみる間に、刈り取られた稲の見事なはぜかけが出来上がり、秋ののどかな風景を楽しませていただきました。

豚汁 とてもおいしかったです。ご馳走様でした。



刈り取り前の稲



はぜかけを手伝う子ども



大釜いっぱいのはし鍋

### ★金子実侑ちゃん

鎌で刈るのが難しかったです。

### ★下川拓実くん

初めて稲刈りをしました。疲れたけど、楽しかったです。お昼ごはんの豚汁おいしかったです。来月どんなことをするのか楽しみです。

### ★下川君のお母さん

刈るのはこどもに任せ、束ねる作業をしました。短時間でしたが大変でした。お米のありがたさが身にしみました。豚汁おいしくいただきました。ありがとうございました。

### ★藤井美早ちゃん

楽しかった🥳

### ★藤井さんのお母さん

美早は小さい時にしか経験がなく、今回は上手に、一生懸命刈っていてすごく成長したなあと思いました。大変な作業を通して食べるものが作られるということを実感してくれたらいいなと思います。



藤井さん親子

6. ビオトープ関連：「山口県のトンボたち」 （管 哲郎 記）

(10) ミヤマアカネ *Sympetrum pedemontanum elatum*

トンボ科 *Libellulidae* Stephens <アカネ属> *Sympetrum* Newman

日本の秋を代表する赤トンボの一つで、翅に竹とんぼの模様のような2本の褐色の筋がはいって、とても優雅な姿をしています。写真家も好んで追いかけているようです。

7月には羽化も終わるのですが、一旦山中に隠れ、秋になると里山や田んぼの周りに姿を現します。オスに比べメスは地味な色をしています。トンボはメスが地味な色をしていることが多いようです、外敵より身を守るためなのでしょう。しかし、若い未熟なオスもメスとそっくりな体色をしています、筆者も最初はメスと勘違いしてしまいました。

このトンボも、年々数が少なくなって、宇部市の近くでもあまり見られなくなりました。美東町大田、大田川の河川敷でも、以前はたくさん見られましたが、いまはサッパリです、環境の変化はあまり感じられないのですが、不思議です。山口市徳地の佐波川水系ではまだ安定して見られます、大切にしたいトンボです。



メスそっくりな未熟オス



成熟したメス



成熟したミヤマアカネの♂



交尾連結

## 7. 会よりの連絡事項 （事務局より）

会報の2014年正月号は記念すべき150号となります。記念冊子としての作成は無理かもしれませんが、全会員皆様の投稿をお願いすることになりますので、今から何か準備しておいてください。（投稿の締め切りは、2014年1月17日（金）の予定です）

会の活動日に、投稿の可否を確認していきますが、少ない場合には強制的に指名も考えますので、ぜひ協力して下さい。

## 8. 編集後記

暦の上では、10月の終わりは霜降であり、朝夕にぐっと冷え込み、霜が降りるころである。しかし、今年は夏の暑さが遅くまであり、そのうえ10月に入ってから例年より多くの台風がやってきた。これは赤道付近の海水温が平均で約1度も高いことによるそうである。11月に入れば、例年であれば紅葉の時期であるが、今年はどうであろうか。今年のこの異常な気候は、やはり地球温暖化によるものなのであろうか、それとも今年のみの変化なのだろうか。季節感は毎年同じであって欲しいと願ってやまない今日である。

（ 原谷 一誠 記 ）